

平成 23 年度
広島大学大学祭企画
実施報告書

家具展 2011 ～モノづくり/ヒトづくり～

主催団体：広島大学工学部建築設計・計画学研究室
木工野郎 A チーム
代表：三阪貴俊

はじめに

「家具展 2011 ～モノづくり/ヒトづくり～」ではこれまでの「モノづくり/ヒトづくり」の流れを引き継ぎつつも、企画をより充実したものにしていくことを目標に掲げ企画を立ち上げました。

本企画では、昨年まで行ってきた「家具製作」及び「手づくり家具の展示会」に加え、「大学祭当日の工作体験所」及び「工学部内に設置してある家具の修理・補修」を行いました。本報告書では、それらの概要と反省、今後の展開について報告いたします。

本企画の趣旨

本企画は、建築学生が主体となって生活空間に密着した家具の設計・制作を通して設計技術を研鑽するための企画です。さらに、他分野の学生との交流を通じてコミュニケーション能力を伸ばし、展示会において活動を一般の方に公開します。

「家具」は生活空間に密着したものであり、自分にあった家具を暮らしに取り入れることで、その生活空間を豊かにすることができます。自分の手で実用的な家具をすることによって、ものに対する愛着・コストダウン・制作過程における多くの人々との出会いなど、形の創造だけにとどまらない様々なメリットが期待されます。そこで本企画は、家具制作の場と、制作した家具の展示の場を提供することを企画します。

本企画の目的は以下の3つです。

- ①家具づくりを通して、生活空間の「設計手法」を学ぶ
- ②モノづくりを通してヒトづくりを図る
- ③展示された作品を通して、家具をつくることに興味をもってもらう

目的についての補足説明

- ① 家具は、建築空間のためにデザインされることもあり、建築空間と密接な関係を持っています。そこで、自分が生活する空間のために自ら家具を設計することは、建築空間のデザインの一環であると共に、建築学生にとって実物大の家具の設計・制作は、図面表現が中心である普段の活動からは得ることのできない、設計技術を研鑽するための貴重な経験になると考えます。
- ② 制作過程では、家具の設計・制作を通して他学部の学生との交流が生まれ、互いに自分の持つ技術を伝えたり他分野の考えを吸収したりするコミュニケーション能力を伸ばし、成長することができると考えています。
- ③ 展示会を通して一般の方に手作り家具を見て頂くことで、普段の生活で当たり前に使っている身の回りのモノや空間に興味を持ってもらうことができると考えます。

活動にむけて

7月のおもしろ企画申請時より、建築設計学・建築計画学研究室のメンバーで企画内容、PR方法、会場デザインなどを話し合いました。

■組織

本企画の運営を行う組織を次のように編成しました。

【木工野郎 A チーム 2011】

代表、連絡：三阪 貴俊 (M1) 建築設計学研究室

会計：木村 愛実 (M1) 同上

広報：櫻井 治 (M1) 同上

記録：トンラガ (M1) 同上

道具管理：立野 宏紀 (M1) 同上

会場デザイン：山下 絵梨佳 (M1) 同上

資材運搬：小山 知弘 (M1) 建築設計学研究室

運営スタッフ：建築設計学研究室 (M1)、建築計画学研究室 (M1) 一同

■制作会場

例年利用してきたフェニックス工房が、実験棟の資材置き場として利用されていたため、今年度はガレリアと、ガレリア付近にある A2 棟脇の地下屋根付きスペースを、同研究室のおもしろ企画「2畳の茶室」と共同で利用することで、作業場所を確保いたしました。その際、利用時間帯が重ならないように配慮し、快適な作業空間を目指しました。また、家具保管場所として C2-114 及び A2-011 を使用させていただきました。

■展示会場

工学部コミュニケーションギャラリー (通称：ガレリア)

- ・多くの人に気軽にってもらうことができる
- ・家具の搬入、保管が容易
- ・会場のデザインが自由にできる
- ・雨天時にも展示会を行なえる

以上の理由から例年同様、開放的で十分なスペースのあるガレリアにおいて展示会を行うことを決定しました。しかし、大学祭メイン会場と距離があるために、昨年同様紅白の風船によるサイン計画にも配慮しました。

■参加者募集

募集ポスターを建築学生が普段利用する建築設計製図室の他、工学部 A2 棟をはじめ他学部にも掲示しました。また、本企画の HP を新設してもみじ告知の際に掲示する等、企画により興味を持って頂けるように配慮して広く参加者を募りました。

■ 工学部の家具の修理・補修

家具展の一環として、私達が普段利用している工学部の家具（ガレリアのテーブル、建築製図室ロビーのテーブル）の修復をしました。

本企画は、自分たちが使う家具を自分たちで作り、愛着を持ってその家具を使用していくことを目的の1つとしています。私たちは、学校の家具は学校が修理すると当たり前のように思っていますが、そうではなく、この活動によって、学校の家具も愛情を持って大切に使い続けるという意識を培いたいと考え修繕を計画し、今年度以降は工学部の家具を修繕していくことを企画の活動のひとつとして取り入れたいと考えています。

■ 手作り家具・工作体験所

今年度は新たに、大学祭当日の展示会において手作り家具の工作体験所を開設することといたしました。より多くの方に家具製作に興味を持って頂き、モノ作りの面白さを体験して頂けるように、おもしろ味のある家具をフタッフが考えました。また、小さい子ども達の参加を想定し、簡単につくれるものを3つ用意しました。

PR 活動内容

本企画をより多くの人に知ってもらうために、昨年度に続き本年度も、展示会のイメージをより印象付ける事ができるように、ポスター・HP・会場のデザインコンセプトを統一しました。以下に PR 活動の内容をまとめます。

■参加者募集・展示会用ポスターの作成・掲示

(添付場所：建築設計製図室、工学部、他学部、IDEC)

■HP の開設

■HP アドレスを掲載したダイレクトメールの作成・送付 (もみじ掲示板)

家具展2011 ～モノづくり/ヒトづくり～
 ＊手作りの家具の体験工作、及び展示
 ＊展示会:大学祭(11/5-6)

家具
作りませんか?

参加者募集! 初心者大歓迎

説明会
 10月12,13,14日 18:00～
 会場:工学部 A2棟 741 (大学院製図室)

説明会に来れない人の参加もOK!

家具製作期間・場所
 10月17日～11月4日の平日 18:30～
 10月29日(土) 10:00～18:00
 11月5日(木) 10:00～18:00
 場所:工学部コミュニケーションセンター
 (通称:ガレリア、モンゴル広場)

参加希望の人は下記メールアドレスまで
 名前
 ・携帯電話等のメールアドレス、電話番号
 を明記の上で連絡頂くか、
 直接製作場所をお訪ねください。

TEL:090-4575-7749 (伊集:三原真輝)
 E-mail: kaguten2011@yahoo.co.jp
 HP: http://kaguten2011.web.fc2.com

家具展2011 ～モノづくり/ヒトづくり～

「手作りの家具の体験工作、及び展示」

私たち建築設計製図学研究室では、ヒトが住まう理想的な空間についての様々な設計・研究を行っています。生活空間での家具の役割は人々の生活の大きな要素であり、自分のライフスタイルに合った家具をそれぞれの生活空間に取り入れることは、自分に合うものの中で生活することによる「我が家」づくりのひとつと捉えます。また、自分たちで実用的な家具を創るということは、モノに対する愛着が深く、コストが低い・斬新な価値を通して多くの人々に出会える、など、私たちの創造だけに限らないメリットが期待できます。

そこで、私たちは手作り家具の体験工作の場の提供、創作家具の展示を企画しました。

■本企画の目的

- 家具づくりを通して、生活空間の設計手法を学ぶ。
- 体験工作、展示を通して自分で家具を創ることに興味をもってもらう。
- モノづくりを通してヒトづくりをはかる。

家具展 2011 ポスター

家具展2011 ～モノづくり/ヒトづくり～

Welcome 今年度の活動 過去の作品 お友達のご案内

「手作り家具の体験工作と展示」

私たち建築設計・計画学研究室では、ヒトが住まう理想的な生活空間についての様々な設計・研究を行っています。

家具は私たちの生活に密着したものであり、自分に合った家具を暮らしに取り入れることで、その生活空間を豊かにすることができます。また、家具づくりから、私たちの日常の空間を見つめ直す機会を得られます。

手づくりの実用的な家具は、ものに対する愛着や、コストの削減、制作過程における多くの人々との出会いなど、私たちの創造にとどまらない様々なメリットをもたらします。

そこで今回、私たちは「家具の体験工作の場の提供」と「創作家具の展示」を企画いたしました。



家具展2011 ～モノづくり/ヒトづくり～

Welcome 今年度の活動 過去の作品 お友達のご案内

家具展2010

昨年参加いただいた方の作品たちを紹介します。

ロ ス ラ イ ド シ ョ ー を 再 生

📷 登録



家具展 2011 HP

参加者説明会（平成 23 年 10 月 12・13・14 日）

参加者に対して本企画の趣旨と、作品を製作する場所、使用できる道具の種類、使用方法、その他諸注意等を行ないました。多くの参加者獲得のために、今年度も説明会を 3 回に分けて開きました。3 日間、建築グループの学生を中心に、工学部の他の類の学生、教育学部・理学部・総合科学部・生物生産学部の学生など約 25 名が集まってくれました。

以下に参加者に対して配られた資料を記します。

「家具展 2011 ～モノづくり/ヒトづくり～」

説明会（10/12,13, 14）

「家具」は生活空間に密着したものであり、自分にあつた家具を暮らしに取り入れることで、その生活空間を豊かにすることができます。自分の手で実用的な家具を作ることによって、ものに対する愛着・コストダウン・制作過程における多くの人々との出会いなど、形の創造だけにとどまらない様々なメリットが期待されます。

この企画では、手づくり家具の体験工作の場の提供・創作家具の展示を行います。

目的

- ① 家具づくりを通して、生活空間の設計手法を学ぶ。
(実寸大のモノづくりを学ぶ)
- ② 展示を通して、自分達の手で家具をつくる事に興味を持ってもらう。
(生活空間への興味を持ってもらう)
- ③モノづくりを通してヒトづくりを図る。

■家具展の流れ

説明会 : 10 月 12 日～10 月 14 日

製作期間 : 10 月 17 日～11 月 4 日

展示期間 : 11 月 5 日～11 月 6 日

家具持ち帰り、返金 : 11 月 7 日～

■展示会設営について

- ・ 11 月 5～6 日の展示の準備の手伝いをお願いします。

今年度は、昨年度まで家具作りで使用していたフェニックス工房が、実験棟補修の建築資材置きとして使用されていたため、ガレリア及びガレリア付近にある A2 棟脇の地下屋根付きスペースを使わせて頂きました。以下に参加者に対して配られた作業に関する注意事項の資料の一部を記します。

注意!!

□作業場所、作業時間に関して

- ・ 家具づくりを開始する前に、必ず **A2 棟 631 室**まで来てください。スタッフが同行します。
- ・ 作業中はスタッフが常駐します。(スタッフがいない場合は工学部 A2 棟 6 階 631 室に呼びに来てください)
- ・ 製作場所、家具や材料の保存場所は以下の通りです。

製作場所：ガレリア (工学部 A2 棟と A3 棟の間の大屋根の下)

保存場所：C2-114 (工学部 A2 棟 1 階東側入口付近)

- ・ ガレリア使用時間の**目安**は以下の通りとします。

平日：18:30~23:00

10月29日(土)、11月3日(文化の日)：10:00~18:00

□家具製作について

- ・ 塗料を塗る際には、ブルーシートを敷いて作業してください。(企画で準備しています。)
- ・ 工房使用後は**ゴミを片付けてから作業を終える**ようにしてください。
- ・ **11月4日(金)に完成**するように作ってください。最終日に集中することが予想されます。作業を計画的に行うようにしてください。

・ けがをしないように注意してください！

□その他の注意事項

- ・ 喫煙などの大学の規則は、しっかり守ってください。工学部の喫煙所はガレリアのすぐ側にあります。

家具製作

■参加者

最終的に参加者は33人、34作品となりました。

参加者数は昨年とほぼ同じぐらいですが、今年度は比較的大きな家具をつくる方が多くいました。

建築グループだけでなく、生物生産学科や理学部、文学部、教育学部、IDEC などからも参加が多数あり、1年生からM2までの幅広い学年による活動ができました。



■制作活動

昨年までのアンケート結果などからも、家具づくりはしたいという気持ちと時間はあるのだけれど、造る場所と道具がないといった理由で家具づくりを断念する声を良く耳にしました。その要望に答えるというのも本企画開催のひとつの理由でした。

制作場所は夜間の貸し出しの了承を得たうえで、工学部のコミュニケーションギャラリーの近くのスペース、作品の保管場所はA2地下の保管する部屋を借りました。塗料で床を汚さないよう、床をビニールで覆いました。

参加者要項にあるように、道具は貸し出して利用可能ですが材料費は実費ということにしていたため、塗料を参加者同士で分け合うなどして材料費のコストを下げるという点にも各参加者の知恵が見られました。

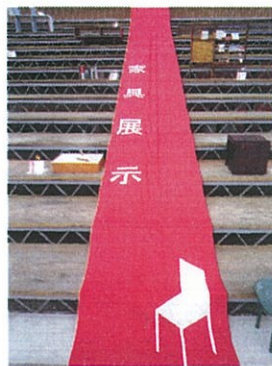
また、制作時間は平日18:30~23:00、休日10:00~18:00とし、手法に関しては参加者各自がそれぞれのペースで行うことを尊重しつつ、わからないことや、より精度の高い作品を仕上げるためにお互い話し合いながら制作しました。安全のために、制作時間帯は必ず運営組織のスタッフが常駐し、怪我のないように注意しました。道具の使用に関しても、参加者に対して指導するよう努めました。



会場デザイン・ネームプレートデザイン

■会場デザイン

赤と白を基調に全体をデザインし、統一感のある鑑賞しやすい会場を目指しました。サイズの異なる数多くの作品を来場者に安全に見学してもらうために、作品の配置計画と来場者の動線計画について、スタディを重ねました。ガレリアの階段を展示台として使い、多くの作品を一度に見渡せるようにしました。布にスプレーで「家具展示」とペイントしたものを階段の中央に垂らして、展示会の看板として道行く人に展示会をアピールし、会場全体を引き締めました。



■ネームプレートデザイン

ネームプレートには作者、作品名、コンセプトを印刷しました。会場全体と調和するカラーリングとし、どの作品にも合う小さなサイズのものとししました。

プレートの材料は CD ケースです。展示会後に、制作風景や会場風景、全作品の写真データを書き込んだ CD をケースに入れて出展者に配布しました。資源節約に一役買っています。



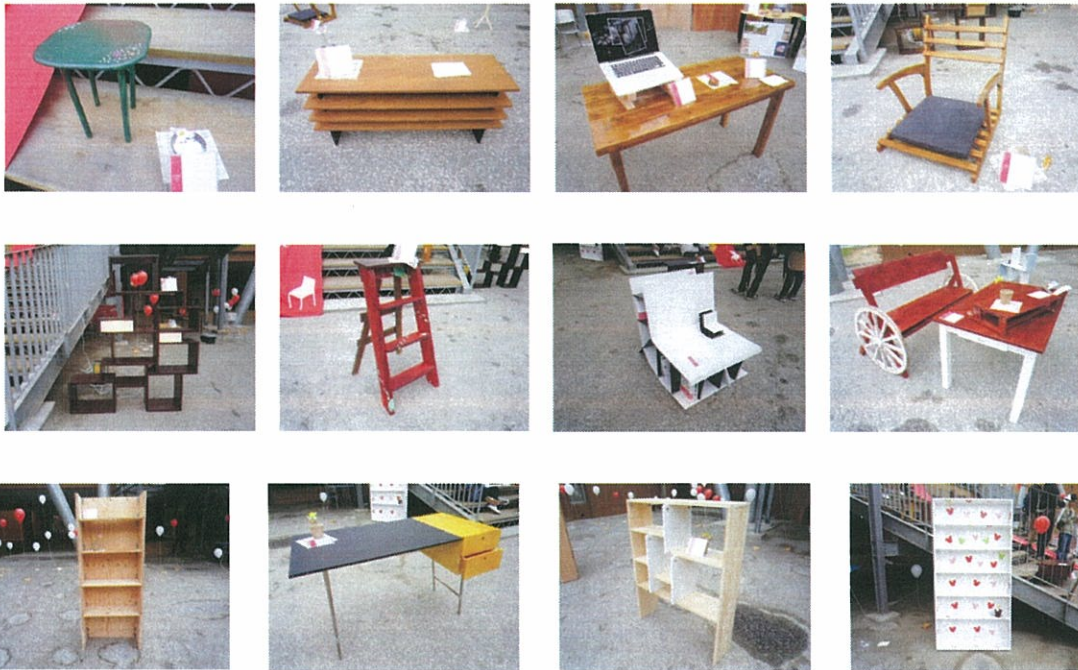
■サイン計画

大学祭メイン会場（総合科学部）から展示会場までの距離遠く、参加者が展示会を見つけにくいことが例年の課題となっていました。今年も例年通り、来場者の誘導のために紅白の風船を展示会場周辺の、工学部 2 階通路とガレリア前の通りに並べ、様々な場所から来場者を会場に導くようにしました。風船をくくり付けるおもりには、木材の廃材を利用しました。これらは保管し、来年も使います。



展示会（11月5、6日）

初日は雨でしたが、ガレリアの屋根の下に展示していたので運営には問題ありませんでした。サイン計画の風船伝いに会場へ向かってくる人が多く見られPR・サイン計画の効果が伺えました。また、今年は、家具製作コーナーを設けたことで、小さい子供にもたくさん来てもらうことができ、例年より活気のある会場になりました。会場では来場者が絶えず、終了時刻間際まで鑑賞したり、家具製作をしたりする来場者が見受けられました。作品説明や家具製作補助で、会場係と来場者の積極的なコミュニケーションがたくさん生まれました。来場者からは様々な質問をいただき、製作者も熱心に自身や仲間の作品について説明していました。直接感想を聞くことは制作者としても非常に有意義な経験であったと思います。



ワークショップ（家具作り体験）

昨年までは大学祭当日は家具を展示し、来場者の方々には家具を見てアンケートに答えて頂くというかたちでした。これまでのアンケートにも家具をつかってみたいという方が多かったので、今年は大学祭当日にも来場者の方が気軽に家具作りを体験できるワークショップを企画しました。

■制作活動

参加者の中には5歳くらいの子どもやお母さん、小学生から大学生まで、様々な方々に参加して頂きました。参加者には“えんぴつ型ボールペン”“ブックエンド”“ゆらゆらモバイル”の3種類の中から選んでもらい、材料は家具作りで余った木材や周辺に落ちている小枝などを利用していただきました。作り方をスタッフが指導し、どんなものになりたいか話し合いながら一緒に作っていきました。安全のために工具を使う難しい作業は運営スタッフが担当し、けがのないように注意しました。制作者によっていろいろな味のある作品ができていたと思います。幼稚園や小学生の子どもたちにとっては初めての経験も多く、思い通りにならないようなこともあったと思いますが、解決するためにお母さんやスタッフと話し合ったりしていたのが印象的でした。

■活動の様子



■ポスター（作り方）

家具作り体験しませんか？

手紙に気持ちを伝えることができます。
贈り物に最適な手作り家具
 自分だけの個性を表現できるのです。

えんぴつ型ボールペン

①材料を揃えてはるばる材料をカットしていきます。
 大人の手でカットする場合は、
 鋸や手鋸でカットする場合は、
 安全で正確なカットが大切です。
 安全な場所で行ってください。

②ペン先に、鉛筆の芯を挿入して固定します。
 ・鉛筆の芯は太さを調整してください。

③接着剤を塗布して固定します。
 接着剤が乾くまで待ちます。
 ・乾かす場合は、
 ・乾かす場合は、
 ・乾かす場合は、
 ・乾かす場合は、

④完成品は、鉛筆の芯を挿入して固定します。
 ・鉛筆の芯は太さを調整してください。

ブックエンド

①材料を揃えてはるばる材料をカットしていきます。
 大人の手でカットする場合は、
 鋸や手鋸でカットする場合は、
 安全で正確なカットが大切です。
 安全な場所で行ってください。

②接着剤を塗布して固定します。
 接着剤が乾くまで待ちます。
 ・乾かす場合は、
 ・乾かす場合は、
 ・乾かす場合は、
 ・乾かす場合は、

ゆらゆらモバイル

①材料を揃えてはるばる材料をカットしていきます。
 大人の手でカットする場合は、
 鋸や手鋸でカットする場合は、
 安全で正確なカットが大切です。
 安全な場所で行ってください。

②接着剤を塗布して固定します。
 接着剤が乾くまで待ちます。
 ・乾かす場合は、
 ・乾かす場合は、
 ・乾かす場合は、
 ・乾かす場合は、

家具補修・修理

今回、新たに作るだけでなく、ものの補修・修理も行いました。作っておわるのではなく、それを大切に使い続けることが重要です。そのような面を感じるために、破損や汚れてしまった家具の修理、補修を行い、もう一度人に使われ続けるものにする活動です。

実際に補修・修理したものはギャラリーのカラフルなテーブル、フェニックス工房内のテーブルです。ギャラリーのものは天版部分のペンキがはげてさびが出始めていました。まず、天版のさびをやすりでそぎおとし、さびが悪化、拡大するのを防止します。その後、ペンキによる塗り直しを行いました。



フェニックス工房のものはテーブルの脚の部分のひとつすでに折れており、一応の処理として別の板でつないでいる状態でした。このテーブルは建築学生が設計課題の合間に疲れをいやす場としてよくつかわれており、このままの状態での使用はいつ壊れてもおかしくなく危険でした。修理としては折れている部分の脚を、壊れる前の同じ形の木板と取り換えました。



修復後はどの家具ももう一度学生によって使われています。

おわりに

謝辞

本報告書は、2011年10月から学園祭までの期間、建築学生を中心に幅広い参加者と共に行ったモノづくり／ヒトづくりの記録です。企画運営上、至らない部分は多々ありましたが、モノを実際につくる機会、ヒトとの関係をつくる機会を得られたことはとても幸運なことだと思います。

それも、モノづくりが大好きな建築学生と、家具作りに興味を持ってくれた他学部の学生、さらに展示会場での工作体験に参加してくれた子どもたちのおかげです。

そして、後見教官として本企画の方向性を示唆し指導していただいた岡河貢準教授には心より感謝の意を表します。

また、本企画は広島大学大学祭工学部企画と工学部おもしろ企画の助成により実施しました。助成をしていただいた工学部の方々、活動場所や家具保管場所の確保に協力してくださった工学部第四類事務室の皆様にも心より感謝し、記して謝意を表します。

本企画の運営に関わったスタッフのみんなにも、心から感謝しています。ありがとう。

2011年11月24日
工学研究科建築学専攻
M110161 三阪貴俊